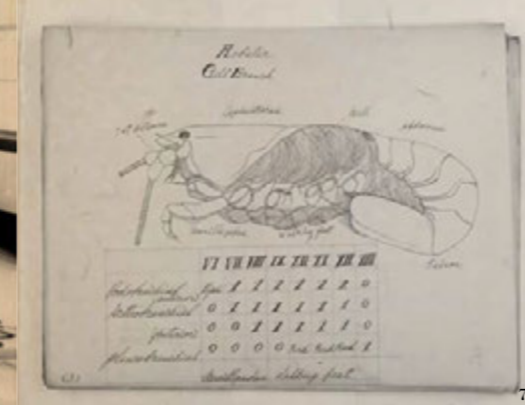
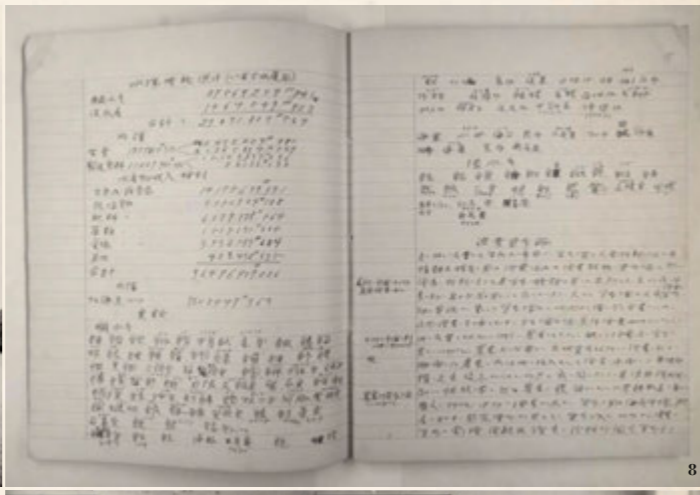


# 挑戦の140年

SCENE-14

## 1880-1909

### 「水産学科の設置」



1. 北海道水産業を牽引した伊藤一隆 (1890年ころ、大学文書館蔵)
2. 水産学科主任藤田経信 (1910年ころ、大学文書館蔵)
3. 水産学科教授野沢俊次郎 (1910年ころ、大学文書館蔵)
4. 忍路臨海実験所 (1910年ころ、大学文書館蔵)
5. 内村鑑三「日本魚類目録」草稿 (1883-84年、大学文書館蔵)
6. 水産学教室 (1910年ころ、大学文書館蔵)
7. 最初の水産学科生徒として入学した中村令の水産動物スケッチ (1907年、大学文書館蔵)
8. 佐藤昌介の「水産学」講義を記録した第14期生平塚直治の受講ノート (1894年、大学文書館蔵)
9. 水産学科の「網釣具製造実習」の様子 (1910年ころ、大学文書館蔵)
10. 水産学科の実習船忍路丸 (1910年ころ、大学文書館蔵)

### さまざまな併設コース

札幌農学校は、「本科」と本科に進学するための準備教育の課程である「予科」のほかに、当時の北海道がその時々に必要なとした様々な階梯・分野の教育課程を併設していた。入植者に農業技術を伝授する「農芸伝習科」、中等教育に相当する「農芸科」、屯田兵士官養成のための「兵学科」、中学校卒業者が進学する「森林科」・「土木工学科」などである。一九〇七年に札幌農学校が東北帝国大学農科大学へと改組する際、これらの併設コースも実業専門教育を教授する課程として再編成した。

### 実業専門学校の階梯

戦前、大学へ進学する最も標準的な方法は、尋常小学校六年、中学校五年を経て、十八〜二十歳の三年間は高等学校で外国語と基礎科目を修め、二十一〜二十三歳の三年間に大学で専門分野を学ぶというルートである。東北帝国大学農科大学の場合、高等学校に相当する「予科」に入學し、予科修了後、「農科大学」（農学部）に進学することとなる。

東北帝国大学農科大学には、「予科」と「農科大学」のほかに、「農学実科」、「林学実科」（「林学科」を改称）、「土木工学科」、「水産学科」の四つの併設コースがあり、いずれも戦前の教育制度では「実業専門学校」に位置付いた。実業専門学校は、学校階梯としては高等学校や予科と重なり、中学校卒業後に進學し、十八〜二十歳の三年間で主に実業に関する専門

義を担当した。一八九三年の教官会議では宮部金吾・新渡戸稲造・南鷹次郎教授が、本科の学生が専攻する専門分野に「水産科」を加えることを提言した。佐藤昌介校長は、一八九八年に文部省へ提出した「札幌農学校拡張意見書」の中で漁撈・漁具・水産製造などを教授するコースとして「水産科」を新設する必要性を訴えた。

### 水産学科の設置

「水産学科」の設置は一九〇七年四月、札幌農学校が大学に昇格する直前に実現した。水産学科主任には札幌農学校を第八期生として卒業後、東京帝国大学理科大学（現東京大学理学部）に学び、農商務省水産講習所（現東京海洋大学）技師を務めていた藤田経信が就任した。主な教授陣は水産養殖学を担当した藤田のほか、

**Hokkaido University HISTORY**  
1880-1909

1880年 1月	- 外国人教師J・C・カッターが水産生物について講義
1881年 6月	- 第2期生内村鑑三が卒業式で「漁業モ亦学術ノ一ナリ」と題し演説する
1891年 10月	- 本科のカリキュラムを改正し、本科の講義科目に「水産学」を加える
1893年 2月	- 教官会議で宮部・新渡戸・南教授が専門学科として「水産科」設置の必要を訴える
1894年 9月	- 佐藤昌介教授が「水産学」を講義
1898年 1月	- 佐藤昌介校長が「札幌農学校拡張意見書」を文部次官に提出、「水産科」設置の必要を説く
1905年 12月	- 「水産科」の設置が決まる
1906年 12月	- 水産学教室新築
1907年 4月	- 札幌農学校水産学科設置
9月	- 札幌農学校を東北帝国大学農科大学に改組
10月	- 水産化学実験室新築
11月	- 忍路臨海実験所新築
1908年 3月	- 水産学実習室新築
1909年 2月	- 実習船忍路丸建造

**大学文書館** だいがくぶんしょかん Hokkaido University Archives  
北海道大学に関する歴史的な資料を収集・整理・保存して利用に供するとともに、北海道大学史に関する調査・研究を行っている。

## 本校ノ学科中水産科ノ一科ヲ設ケ北海ノ機関ヲ拡張シテ本道実業ノ振興ヲ謀ルノ

水産漁撈学の野沢俊次郎（札幌農学校第五期生）、水産植物学の遠藤吉三郎（東京帝国大学理科大学出身）、水産製造学の佐々茂雄（第十六期生）、鈴木寧（第二十二期生）などである。札幌のキャンパス内に水産学教室・水産学実習室・水産化学実験室などを建設し、小樽近郊に忍路臨海実験所を設置し、実習船忍路丸を建造した。当時、水産学を専門に教授する高等教育機関は、他には水産講習所のみであった。

水産学科はその後、附属水産専門部、函館高等水産学校へと改組を重ね、一九四九年に北海道大学水産学部となる。現在、独立した水産学系学部を有する高等教育機関は、他に東京海洋大学、長崎大学、鹿児島大学、北里大学、東海大学、水産庁所管の水産大学校など僅かである。水産学は、百四十年にわたって北海道大学の研究・教育の歴史を特徴付けてきた分野と言える。

## 漁業者ヲ養成シ以テ益々漁業ノ改良発展ヲ謀ルベシノ是レ本校ノ教育一端ナリトス（佐藤昌介札幌農学校長「札幌農学校拡張意見」）

的な学問・技術を学ぶ高等教育機関であった。大学が外国語による専門的な学問の研究を主眼としたのに対し、実業専門学校は専門的な知識・技術習得により重きを置いた。戦後の教育制度に比定すると、実業専門学校も現在の大学に相当する。

一九一二年の東北帝国大学農科大学全体の在學生は、農科大学三〇六名、予科二八三名、農学実科八五名、林学実科七九名、土木工学科九五名、水産学科一一六名である。学校階梯別に在學生の割合を表すと、大學生が二四％、高等学校生が三三％、実業専門学校生が四三％となる。多彩な階梯の在學生がキャンパスに多数混在した点は、他の帝国大学に見られない特徴であった。

**札幌農学校における水産学分野**

実業専門学校階梯のコースの中では「水産学科」の存在が目玉を引く。四方を海に囲まれ、水産資源の活用が重要な課題であった北海道の地政上の環境を反映している。

札幌農学校は水産学分野を重視していた。初期には、生理学を教授した外国人教師J・C・カッターは動物学の講義の一環として水産生物を取り上げた。カッターの講義を受けた第一期生伊藤一隆は、卒業後に北海道庁水産課長として北海道水産界をリードした。第二期生内村鑑三も卒業式で「漁業モ亦学術ノ一ナリ」と題して演説し、卒業後に水産調査・試験に従事し、「日本魚類目録」の作成に当たった。

札幌農学校は、一八九一年作成の本科カリキュラムの講義科目に「水産学」を加え、農業経済学を専門とする佐藤昌介教授が講